

巻頭
言

治療する医療から共生する医療へ



会長 山崎 學

明けましておめでとうございます。令和2年を迎えて、今年1年が平穏な年になることを祈念しております。

わが国は、外交、防衛、教育、治安、社会保障上で難問を抱えています。

外交でいえば、安倍晋三総理のもとで日米関係は強固な信頼と同盟関係を築いていますが、米国と中国の経済摩擦、英国のEU離脱問題、中東におけるイスラム内部の混乱、北朝鮮問題と、一触即発の緊張した世界情勢が続いています。

防衛についていえば、中国が一带一路の名のもとに覇権主義を世界に広げて、東南アジア、南太平洋、オーストラリア、アフリカ諸国に手を伸ばしています。自治を守ろうとする香港の騒乱ぶりを見ていると、いずれ火の粉が台湾などあちこちに飛んでいきそうな勢いです。

教育についていえば、教育再生会議の提言から始まった大学入試英語民間試験のドタバタは、営利企業が大学受験における英語をビジネスモデルに仕立て上げようとした実態を露呈させました。日本人の英語コンプレックスはいつになったら解消するのでしょうか。小学校から英語のカリキュラムを導入するなど、もってのほか。人間の思考は、国語力が基本です。国語力をつけなければ試験問題を理解できないし、頭の中で日本語の構文がつかれなければ、何語を話そうか気のきいた会話などできるはずがありません。

治安について考えると、市場原理主義の結果として非正規労働者の増加は世代間の経済格差、若年者の貧困を生むことになり、行き場のない怒りが国中に蔓延しているようにさえ感じられます。少子高齢化による労働力不足は外国人労働者に依存する形になり、一部の不心得な経営者による劣悪な労働環境がそこで働く方々の不幸を招き、それがひいては日本の治安の悪化につながりかねないことを危惧しています。

社会保障における医療・介護・年金・生活保護のあり方は、大きな問題です。政府は全世代型社会保障改革を目指していますが、実質は高齢者の社会保障を削り、さらに負担を増やし確保した財源を、若い世代に付け替える作業だとみています。美濃部都政から始まった耳触りのよい老人医療無償化により手厚い社会保障に慣らされた高齢者は、3割負担の現役世代に比べて長い間優遇されてきました。しかし、第1次ベビーブーマーが後期高齢者になる2025年問題、第2次

ベビーブーマーが後期高齢者になる 2048 年問題を考えると、低負担・中福祉のわが国の社会保障制度の破綻は確実です。社会保障制度について国民に真剣に問わなくてはならないときが来ているにもかかわらず、ほとんどの新聞社は軽減税率でお目こぼしにあずかりながら消費税の引き上げに反対の姿勢で国民を煽り続けています。

本年 4 月に行われる診療報酬改定は、昨年 10 月に行った消費税引き上げによる診療報酬改定で薬価調整したために改定財源の薬価引き下げ財源は微々たるものになり、働き方改革のための費用と合わせて前々回の引き上げ幅と同じ 0.55% で、最終調整が進められています。

医療費の増加は国民の高齢化が大きく影響していますが、抗がん剤を中心とした高額な新規参入薬剤、外国産高額医療器材の影響もあるような気がします。2 人に 1 人ががんになると言われる時代、末期がんで苦しみぬいて亡くなった妻を介護した経験から、生存余命を考えた治療、がんと共生する生き方、自己選択による尊厳死を進めていく必要があると思っています。

今年 1 年、執行部一丸となって難局に立ち向かっていく所存であります。会員諸先生のご指導・ご鞭撻をお願いし、新年の挨拶に代えさせていただきます。